

天理大学ふるさと会海外研修報告書

アメリカ合衆国の若者の宗教意識と行動様式

—西海岸の大学におけるアンケート調査を中心に—

外国語学科英米語専攻 4年 水上よしの



はじめに

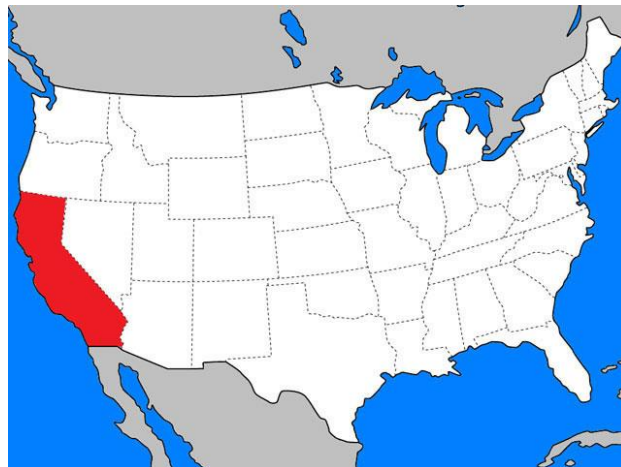
1. 日程
2. アンケート調査結果
3. アメリカでの二週間

おわりに

はじめに

この度は、ふるさと会海外研修に採用していただき、ありがとうございました。新型コロナウイルスの影響がありましたが、延期という形をとっていただき、無事に研修に挑む事が出来ました。それも、多くの先生方、職員の方々に計画・準備の段階から細かいところまでサポートいただき、実現することができたと思います。本当にありがとうございました。

私はこのふるさと会海外研修において、アメリカの若者の宗教観を明らかにすべく、2022年8月23日から9月7日の間、アメリカのロサンゼルスに渡り、現地の大学3校を訪問しました。大学はUniversity of California Los Angeles（カリフォルニア大学ロサンゼルス校）、University of Southern California（南カリフォルニア大学）、California State University Long Beach です。いずれの大学も人種・民族的に多種多様な学生が通い、海外からの留学生も多いため、より多角的な意見が得られると考え選択しました。そこでは、学生に向けたアンケート調査を行いました。



私は天理教の教会に生まれ育ち、今日まで天理教の環境の中で育ってきました。そんな中、アメリカ史について勉強する機会があり、アメリカの宗教に興味を持ち、自分も信仰する者として、この調査を試みました。8月23日～9月7日まで天理教アメリカ伝道庁に滞在し、大学までは伝道庁の青年さんに送迎していただき、朝10時ごろから午後3時ごろまで大学のキャンパス内にて、調査を行いました。休日には近くのキリスト教の教会を訪問し、現地での雰囲気を感じました。

1. 日程

8月24日、29日 University of California Los Angeles にて調査

8月30日 University of Southern California にて調査

9月1日、2日 California State University Long Beach にて調査

その他日程は、伝道庁の遥拝式や清掃ひのきしん、日曜日には伝道庁近くのキリスト教の教会を訪問しました。



↑ 伝道庁の正面入り口



↑ UCLAの様子

2. アンケート調査結果

アンケートは紙面での書き込みによる協力をいただきました。はじめにコンセンストフォームにてこのアンケートの説明や、署名などをしてもらい、その後アンケートの回答に移りました。しかし、時間のない人もいると考え、Google フォームでも同じ内容のアンケートフォームを作成し、QR コードを読み取って、後でも回答を得られるようにしました。

また、このアンケートは何かしらの信仰をもつ者（何かしらの宗教に属す者）と、何も信仰をもたない者（特定の宗教を持たない者、神を信じない者）の二つにページを分け、比較をできるようにしています。

○アンケートの質問内容

〈基礎情報〉

- | | |
|----------|-----------|
| * 性別 | * 年齢 |
| * 所属する宗教 | * 家族の信仰状況 |

〈宗教・信仰を持つ人への質問〉

- ①あなた自身の信仰の度合いはどのくらいですか？
- ②あなた自身の人生において宗教はそれくらい大事ですか？
- ③どのくらいの頻度で礼拝に行きますか？
- ④礼拝以外で神に祈ることはありますか？
- ⑤人生において宗教の影響やパワーを感じますか？
- ⑥大学生活で宗教的だと感じるシチュエーションはありますか？
- ⑦礼拝や宗教的儀式以外での宗教的な活動はありますか？
- ⑧信仰することのメリット・デメリット
- ⑨コロナウイルスによって宗教的活動に何か影響は出ましたか？
- ⑩コロナによって信仰心に変化はありましたか？
- ⑪アメリカの若者は宗教的だと思いますか？
- ⑫無宗教や無神論者に対してどう思いますか？

〈信仰を持たない人への質問〉

- ①なぜ宗教・信仰を持っていないのですか？
- ②ある宗教に勧誘されたらどうしますか？
- ③宗教や信仰についてどんなイメージを持っていますか？
- ④大学生活で宗教的だと感じるシチュエーションはありますか？
- ⑤アメリカの若者は宗教的だと思いますか？

○アンケートの結果と考察

まず初めに、〈基礎情報〉の結果を提示します。

このアンケートの総数は 95 人です。

01.性別：男性 36 人（38%） 女性 56 人（59%） その他 3 人（3%）

02.年齢：10 代が 49 人（52%） 20 代が 43 人（45%） 30 代が 3 人（3%）

03.所属する宗教

カトリック 33 人（36%） 無宗教・無神論者 31 人（34%）

プロテスタント 8 人（8%） 仏教 4 人（4%）

その他には

ユダヤ教 ヒンドゥ教 正教会（Orthodox） イスラーム

神道 non denomination Christian Agnostic

04.家族の信仰状況

家族全員同じ宗教という回答は 61 人（64%）

親と違う宗教という回答は 9 人（9%）

自分だけ違う宗教という回答は 8 人（8%）

分からないという人は 5 人（5%）

無回答は 10 人（10%）

その他は 2 人（2%）で、その中には両親のどちらサイドにつくかで変わる、家族の何人かは同じ宗教というような意見がありました

次に信仰者のアンケートの結果です。何かしらの宗教に属していると回答した人は先述の通り 64 人なのでその数を母数にしています。

1.What is the level of your faith?（あなたの信仰の度合いはどれくらいですか）

非常に宗教的（highly religious） 2 人（3%）

とても宗教的（very religious） 11 人（17%）

宗教的（religious） 24 人（38%）

あまり宗教的ではない（not so religious） 23 人（36%）

宗教的ではない（not religious） 4 人（6%）

理由の欄には「中学や高校で宗教的な学校に通っていたため」、「時々教会に通っているため」（とても宗教的）や、「自分の家族は宗教的なことを一切しない」（宗教的ではない）というものがありました。

自分自身の信仰を客観的に見たときに、「宗教的」「あまり宗教的ではない」が多数を占めていることから、宗教に属している＝宗教的である、宗教的でなければならない、ということではないことがわかります。

2.How important is religion in your own life? (あなた自身の人生において宗教はどれほど重要ですか)

宗教がかなり重要(very important) 16 人 (25%)

まあまあ重要(fairly important) 7 人 (11%)

重要(important) 18 人 (28%)

そこまで重要でない(not very important) 22 人 (34%)

全く重要でない(not important at all) 1 人 (2%)

理由の欄には、「自分の生きる道であるため」、「自らを満足させてくれる」(とても重要)や、「学校などの他のことにフォーカスしたい」や「自分の行動や選択を導くものではない」(そこまで重要ではない) などがありました。

結果が広く分布していますが、1 の質問で自分を宗教的ではないと回答している人でも、人生において宗教は重要と答えていることになるので、心の中では重要視していることがわかります。

3.How often do you attend the religious service? (礼拝にはどれくらいの頻度で行きますか)

ほぼ毎日(almost every day) 2 人 (3%)

週一回(weekly) 14 人 (22%)

月に一回(monthly) 5 人 (8%)

年に数回(several times a year) 9 人 (14%)

年に 2, 3 回(a few times a year) 21 人 (33%)

全く行かない(seldom/never) 13 人 (20%)

毎週行く人も多いですが、あまり頻繁にいかない人も多いことがわかり、礼拝の参加が重要視されていない傾向が見られます。

4.How often do you pray to God outside of religious services? (どれくらい礼拝以外で神に祈りますか)

いつも祈る(often) 19 人 (30%)

時々(sometimes) 21 人 (33%)

危機に直面したときのみ(only in time of crisis) 15 人 (23%)

全く祈らない(never) 9 人 (14%)

まったく祈らないという人以外がほとんどであることから、礼拝に行かない傾向にあっても、祈るという行為は当たり前に根付いているように感じます。

5.Do you feel the power and influence of your religion in your life? (あなたの人生において宗教のパワーや影響を感じますか)

Yes 37 人 (58%) No 26 人 (40%) 無回答 1 人 (2%)

Yes と回答した人は具体的な場面を書いてもらい「神はいつも私たちを見ていて、守ってくれている」や、「どんなときも神はご加護を与えてくれていて、自分を助けてくれる」などがありました。

6.Are there any situations in your college life in which you feel religious? (大学生活において宗教的だと感じる場面はありますか)

Yes 22 人 (34%) No 42 人 (66%)

Yes と回答した人の具体的な場面では、「神は私のための教育のプランをセットしてくれていると信じている」や「テストの前には勉強に加えお祈りをしている」などがありました。

No と答えた人のほうが多く、Yes と答えた人も学校の制度的な部分での宗教性は感じていないため、やはり政教分離がしっかりと見られると感じました。

7.What religious activities do you practice other than the service/religious rituals? (礼拝や宗教的儀式以外での活動は何かありますか)

多かった回答は食事や睡眠の前といった日常の中で祈りを何度もしているといったものや、礼拝音楽 (worship music) といった歌や音楽での活動もありました。ほかには学生のグループが存在したり、教会のボランティアに参加したりしているというような回答もみられました。

祈る行為が日常的なものであること、ほかにも学生での団体があり、定期的に集会があるのではないかと感じました。実際、アンケートしているときにある宗教の学生団体の一人に声を掛けられ、パンフレットのようなものをもらいました。

8.What are some advantages and disadvantages of having faith?

(信仰を持つことのいい点と悪い点は何ですか)

良い点 「落ち着くし、守られていると感じる」「幸せを運んでくれる」「規律がある」

悪い点 「他の物事に十分な時間を費やせない」「無宗教の人やほかの宗教からの一方的な見方をさせる時がある」「厳しいルール」

などがありました。

しかし、「低い信仰心であれば悪いと覚ることもあるが、信仰心をしっかりと持っていたらすべてがよいことである」という意見が多かったです。

いい点も悪い点もありましたが、上記のように、悪い部分が見えるのは自分の信仰の問題であるというようなコメントも多くみられたことから、信仰を持つことをプラスにとらえているように感じました。

9.What are the influences of the COVID-19 on your religious activities?

(新型コロナウイルスによる宗教的な活動への影響は何ですか)

礼拝・宗教的儀式 (service/religious rituals) 33 人→「オンラインでの参加となった」
「教会に行けなくなった」など

伝道活動 (missionary work) 3 人

定期的・年間行事 (regular/annual events) 20 人→「中止になった」「狭いスペースなので開催できなかった」など

その他の回答 1 人→「家族でミサに行けなくなった」

やはり、教会への訪問への影響が一番多かったです。半分以上の人が新型コロナウイルスによる宗教・信仰への影響を感じていました。

10.Are there any changes of your religious motivation due to COVID-19?

(新型コロナウイルスによる宗教的なモチベーションの変化はありましたか)

よりやる気が出た (much more motivated) 9 人 (14%)

少しやる気が出た (slightly more motivated) 6 人 (9%)

変化がなかった (unchanged) 36 人 (56%)

少しやる気がなくなった (slightly less motivated) 8 人 (13%)

よりやる気がなくなった (much less motivated) 4 人 (6%)

無回答 1 人 (2%)

やる気が出た方の具体的な例や意見には「神と距離がより近くなった」「健康な体に感謝するようになった」というような回答があり、やる気がなくなった方の意見では「教会に行かなくなった」「個人での信仰の理由を見出せなくなった」という回答でした。

精神的な変化はないという人がほとんどで、そもそも宗教的なものへのモチベーションが低くも高くもないのではないかと思います。だからこそ、活動に影響が出ても、心の変化は乏しいのではないかと考えられます。

11.What do you think about young people's religious attitudes in the United States?

(アメリカにおける若者の宗教的態様についてどう思いますか)

非常に宗教的 (highly religious) 1 人 (2%)

とても宗教的 (very religious) 4 人 (6%)

宗教的(religious) 11 人 (17%)

そこまで宗教的ではない(no so religious) 42 人 (65%)

宗教的ではない(not religious) 5 人 (8%)

宗教的であるという回答をした人の理由には「アメリカは一般的に宗教的であるといわれているため」「多くの友達がキリスト教で教会に行っているため」などが挙げられ、宗教的ではないという人の理由には「若者は社会を現実的な見方をするため」「多くの人が宗教に興味を持っていない」「信仰することに誇りを持っていない」などが多く挙げられました。

そこまで宗教的ではない意見が多数で、この結果から、宗教に属す人から見ても宗教的ではなく、現在問題となっている若者の宗教離れを感じさせました。しかし、宗教的であると判断するその基準は、もちろん日本とは違いただろうと思うので、そのレベルによってこの結果の見方も変わってくると感じました。

12.What do you think about non-religious people or atheists?

(無宗教者や無神論者についてどう思いますか)

無宗教や無神論者に対して自分の宗教に入るように説得する(I will try to persuade them to join my religion.) 0 人

彼らの宗教的価値を尊重する(I respect those people's religious value.) 52 人 (81%) で

気にしない(I don't care.) 6 人 (9%)

その他の意見 5 人 (8%)

無回答 1 人 (2%)

その他の意見の中には「彼らが話を聞く姿勢であれば、会って会話をする」「彼らに対しては寛容な態度である」というものがありました。

宗教の属す人にとって、無信仰・無神論者は「敵」ではなく、それよりも、無宗教・無神論という一つのグループとしてとらえているのではないかと感じました。自分の信仰を持ちつつ、彼らにも寛容的であることがわかります。

次に無宗教、無神論者に対するアンケートの結果です。回答者は全 29 人です。

1.Why are you an atheist?

(なぜ無神論ですか)

多かった回答は「宗教に対してパワーを感じない」「神の存在の証明や理由がない」「宗教のある家庭に生まれていない」「宗教的な高校に通っていたが、卒業して関わる事がなくなったため」等がありました。

この回答にはもともと生まれた家庭が宗教を持っていない場合と、宗教に属していたが、時が過ぎるにつれて、様々な環境の変化によって、無宗教・無神論となったという、二つに分かれていることがわかります。このような人が増える原因として、環境の変化や自分の周りの社会の変化があるのではないかと思います。

2.What would you do when you are invited to join a religion?

(ある宗教に誘われたらどうしますか)

まず強く受け入れる(strongly accept) 0人

もしかしたら受け入れる(probably accept) 0人

ただ聞く(just listen) 13人(45%)

もしかしたら拒否する(probably reject) 12人(41%)

無視する(ignore) 1人(3%)

その他の回答 3人(10%)であった。

その他に回答の中には「聖書や音楽には触れたい」「強く拒む」などがありました。

回答の理由については、一番多い、ただ聞くだけの人の理由には、興味があるが、宗教的にはならない・信仰はないというようなものが多く、もしかしたら断る人の意見には、これとは逆で興味がないという意見が多かったです。

受け入れるという回答はありませんでしたが、そこまで反発的なイメージを持っていることもないとも感じました。拒否する人の意見ではただ宗教に興味がないという意見が多かったので、悪いイメージだけではないと思いました。

3.What kinds of images do you have regarding religion or faith?

(宗教や信仰に関してどのようなイメージを持っていますか)

何か悪いことが起きた時に解決の道を見出してくれたり、より良い方向に導いてくれるといった回答がありましたが、いくつかの回答には、良いところはあるが、怖い、厳しい、人々の行動を縛るなどの回答が見られました。

身近に宗教が存在するアメリカということもあり、教えの本質的な部分をイメージとして回答している人もいましたが、身近だからこそ、悪い部分も両方見えていて、双方のイメージを持っている人が多かったです。

4.Are there any situations in which you feel religious in college life?

(大学生活において宗教的だと感じる場面はありますか)

Yes 2人(7%)

No 27人(93%)

yesと答えた人のシチュエーションはいつもは信じていないが、試験の時にうまくいくように祈ることがあるというようなものでありました。

ほとんどがないという回答でした。

5.What do you think about young people's religious attitudes in the United States?

(アメリカにおける若者の宗教的態度についてどう思いますか)

非常に宗教的(highly religious)	0 人
とても宗教的(very religious)	3 人 (10%)
宗教的(religious)	8 人 (28%)
そこまで宗教的ではない(not so religious)	14 人 (48%)
宗教的ではない(not religious)	2 人 (7%)
その他の回答と無回答	それぞれ 1 人 (3%)

一番多いそこまで宗教的ではないという回答の理由には「全員が宗教的とは言えない」「周りにどんな友達がいるかによる」「宗教に属しているがあまり宗教的ではない」などが挙げられ、宗教的という回答の理由には「大学で宗教から様々な考えを得たため」「自分の周りのほとんどが宗教的であるため」などでありました。

そこまで宗教的ではないという意見がやはり多かったですが、全体としてみたときに、全員が全員宗教的ではないし、たとえ何かの宗教に属していたとしても、属しているから宗教的であるということは、100%ではないことをコメントしており、信仰することは自由であることが感じられました。

○まとめ

以上がアンケートの結果になりますが、結果を受けて一番感じたことは

「宗教に属しているから宗教的、属していないから宗教的ではない」

ということは全くない

ということです。アンケートの数的にもやはり、宗教に属する人のほうが多かったですが、だからといって、全員が宗教的ではないし、むしろ宗教的ではないという人のほうが多いのではないかと感じました。

現在アメリカにおいて、若者の宗教離れが問題となっていますが、それが顕著にみられたアンケート結果となったように思います。若者の宗教離れの原因はいろいろあるとは思いますが、ほかに影響されない、自由な選択がそのような結果に導いたのではないかと私は考えます。

また、日本の宗教へのとらえ方とは全然違う中で、宗教へのハードルが低いのではないかと考えました。宗教大国といわれているアメリカで、日常の中に宗教が溶け込んでいて、人々が宗教とそれ以外の区別をそこまでしていないからこそ、自分は宗教的ではないと思っている人でも、礼拝にはいくし、日常的に祈りという行為をするのではないかと思います。

だからこそ、宗教離れのように見えて、宗教が日常化した結果のように感じます。宗教とそれ以外のボーダーラインがあいまいだからこそ、人々の認識もあいまいになり、それこそ若者はいまの最先端を生きているからこそ、古い伝統やしきたりにとらわれることなく、ある意味自由な選択の中に生きていると感じました。

3.アメリカでの2週間

ここではアメリカでの二週間を写真も提示しながら振り返ります。



↑最初に訪問したのは UCLA（カリフォルニア大学ロサンゼルス校）でした。有名校であり、マンモス校であるため、敷地は広く、人も非常にたくさんいました。写真左は校舎の一つで、右は UCLA の公式マスコットのモチーフであるクマの銅像です。



←次に訪問したのは USC（南カリフォルニア大学）です。ダウンタウンの郊外に位置していて、こちらも非常に多種多様で多くの学生が通っていました。



↑滞在先の近くの Rock of Salvation という教会です。滞在先の周辺はスペインやポルトガル系の方が多く住んでいるため、午前中には英語での説教、午後にはスペイン語での説教をしていました。家族連れが多かったように思います。

終わりに

2週間を振り返って、まずは本当にこの研修に採用いただき、無事研修を達成することができて、有難い気持ちでいっぱいです。新型コロナウイルスの影響で、行くべき年に行くことができず、中止も示唆されていたところ、ふるさと会の皆様のお心添えで、延期という形をとっていただき、卒業する前に研修に行けたことは本当に、自分の人生において大きなかけがえのない出来事となりました。ありがとうございました。

私自身、海外へ行くことが初めてのことで、不安な気持ちも非常にありましたが、それ以上にわくわくしていて、今まで踏み入れたことのない地で、自分の研究ができることがすごく幸せなことだと準備の時から感じていました。渡航まで海外部の皆様や、国際交流センターの皆様、伝道庁長先生、大学の先生など、多くの人の協力のもと、無事にアメリカへ発つことができました。

現地についてからは、伝道庁のみなさまが温かく迎えていただき、伝道庁の一員として、アメリカでの生活を支えていただきました。伝道庁では朝の神殿掃除から始まり、その後朝づとめ、朝食、朝礼では八つのほこりやおかきさげなどを英語で拝読させていただきました。はじめはなかなかスピードについていけず、目で追うのが精一杯でしたが、日を重ねるごとに少しずつ拝読できる箇所が増えてきて、成長を感じることができました。夕方は夕づとめも参拝し、その後はアンケート調査の準備を部屋でする日々を送っていました。

二週間の滞在で、大学への訪問は毎日ではなかったので、空いている日はひのきしんをし

たり、青年さんや近くの天理教の教会の知り合いの方に色々なところに連れて行ったりしていただきました。右の写真はグリフィス天文台です。青年さんの運転で、夕づとめ後に行きました。ロサンゼルス景色を一望することができます。ほかには、ハリウッドや、サンタモニカビーチなどに行きました。非常にいい思い出となりました。



大学でのアンケート調査では、大学のキャンパス内で、ゲリラ的に行ったので、最初は話しかけられるか不安もあり、時間がたってしまっていました。一度話かけてみると、みなさん話を真剣に聞いてくれて、アンケートも比較的積極的に協力していただくことができました。英語での会話はとても緊張しましたが、特に大きな問題はなく会話することができ、安心したのと同時に、もっとコミュニケーション能力、スピーキング力をつけたいと思いました。それくらい、大学での英語と現地での英語は異なっていて、とても刺激的でした。大学には、日本人の留学生も何人かいましたので、協力していただき、日本語でも会話して、応援してくださって、励みになりました。



↑上の二枚は実際にアンケートをしている様子です。このように、休憩している人や、ランチタイムの人のところへ行き、話しかけ、協力していただきました。

この二週間、もちろん楽しいことだけではなく、アンケートを集める中で、言語的な苦労や、精神的な苦労はありましたが、無事に目標の数を集めることもできたし、何より、大きな事故なく日本に帰国できたことは、本当に有難い気持ちでいっぱいです。初めての海外を一人で移動し、これも周りの方々のはかり切れないほどのサポートがあったからこそで、このような貴重な経験をさせていただいたことを深く感謝しています。また、ふるさと会の方々のお心添えがあったからこそ実現したこの研修です。改めて感謝申し上げます。ありがとうございました。こんなにも濃く、充実した経験を活かすことが私のすべきことだと思います。国内では学べないことを、代表して海外へ行き、研修することができましたので、この経験を絶対に無駄にすることなく、周りのために、自分の成長のために生かしていきたいと思います。

今回は本当にありがとうございました。

水上よしの